

おひさま通信は、おひさま進歩エネルギー及びグループ会社の実施事業をご紹介する不定期発行冊子です

日本初の太陽光市民ファンド 「南信州おひさまファンド」と「信州・結いの国おひさまファンド」 分配完了

おひさま進歩エネルギーは、再生可能エネルギー事業と省エネルギー事業を通じて地球温暖化を防止するため、市民出資という方法で、全国の皆さまから出資をいただき事業に取り組んできました。そのスタートは、2005年に募集した日本初の太陽光発電市民出資「南信州おひさまファンド」です。

2020年6月、「南信州おひさまファンド」と、2010年に募集した「信州・結いの国おひさまファンド」が出資者への分配を終えて、償還という節目を迎えました。

今回は、第1号ファンドとなった「南信州おひさまファンド」を中心に、その歩みを振り返ります。



「南信州おひさまファンド」でパネルを設置した千代保育園の点灯式

市民の力で、自然エネルギーを増やそう

2004年、飯田市が環境省「環境と経済の好循環まちモデル事業」を受託して、その事業パートナーとして地域の環境NPOを母体に、おひさま進歩エネルギーが誕生しました。北海道の市民風車ファンドの仕組みを参考に、市民から出資を募り「太陽光発電」と「省エネ事業」を普及させる事業でした。

飯田市は「環境問題の解決と、地域の環境産業の育成につながる」と、公共施設の屋根を20年間貸し出すことを決断。行政と民間企業が協働して課題解決に取り組む、「新しい公共」の事例としても注目を集めました。



第1号ファンド出資者の名前を記した記念板
(飯田市役所前 市営駐車場に設置)

募集金額「2億150万円」 全国から次々申込みが

2005年3月、「南信州おひさまファンド」の募集が始まりました。A号（一口10万円、契約10年）、B号（一口50万円、契約15年）の2契約で、総額2億150万円の出資を、地元をはじめ全国へ呼びかけました。

「これだけ多額の出資が集まるのか…」という心配をよそに、全国から申し込みが相次ぎ、募集期限前に満額で締切ることができました。地球温暖化防止の事業を応援したいという多くの方々が、前例のない事業にも関わらず出資してくださいました。出資者はA号、B号合わせて474人にもなりました。

出資金をもとに、太陽光発電事業は、おひさま発電所38カ所のパネル設置、設備運用がスタート。省エネは商店街エスコ事業として、飯田市美術館や福祉施設、公共展示施設など12カ所へ高効率空調設備やインバータ制御などを導入して、年間で合計232.3t-CO₂のCO₂削減を見込む事業が始まりました。

すべての屋根にパネルを「おひさま0円システム」

おひさま0円システムの仕組み



2010年には、一般住宅の屋根に初期費用0円でパネルを設置する「おひさま0円システム」のため「信州・結いの国おひさまファンド」を募集、103人から4790万円出資をいただきました。

0円システムは、一般住宅向けの太陽光パネル第三者所有モデルで、9年間毎月定額の電気料をいただき、10年目にパネルが無償譲渡されます。このファンドで22軒に、合計72.5kWのパネルを設置して、2020年5月に譲渡を完了しています。

地域の電力50%を、地域の再生可能エネルギーでまかなう

第1号ファンド、第4号ファンドが償還となり、ちょうど当社にとって区切りとなる2020年、世界各国や日本政府、長野県などが2030年、2050年を見据えた中長期の再生可能エネルギーの達成目標を掲げている中、おひさま進歩エネルギーとして2030年3月までの10年目標を掲げることとしました。

その目標は、「地域の電力50%を、地域の再生可能エネルギーでまかなう」。

これは、単なる理論数値ではありません。現在の飯田下伊那の消費電力量から、太陽光や小水力発電など再生可能エネルギーの普及、省エネルギーの推進、人口変化等を加味し、電力においてはここまで達成したいという志として掲げました。

もちろん、当社のみでの努力では到底達成し得ませんし、熱等エネルギーや交通など、エネルギー全体で考えていく必要があります。そのためには開発だけでなく、普及啓発も大変重要となります。

飯田まちづくり電力という新電力会社が立ち上がった今、電力を1つの指標としながら、地域の多くの方々と目標を共有してエネルギーシフトを目指し、達成していきたいという思いです。

南信州版モデルの達成に向けて事業を進めてまいりますので、皆さまの引き続きご声援をお願い申し上げます。



飯田まちづくり電力
家庭向け「シンプルプラン」受付スタート



おひさま発電所が生み出した自然エネルギー (FIT電気※) を提供する電力小売会社「飯田まちづくり電力株式会社」は2020年3月、いよいよ家庭向けプラン「シンプルプラン」を発売、電力供給を開始しました。飯田下伊那地域をはじめ、長野県内や中部電力管内のお客様から、契約切替えのお申し込み、お見積もりを受け付けています。

詳しくは、飯田まちづくり電力株式会社まで、お気軽にお問合せください。

「シンプルプラン」基本料金0円、契約容量に応じて使った分だけ料金をお支払い

- ☆子育て応援プラン 3歳未満のお子様がいるご世帯が対象
 - ☆UIターン応援プラン 指定市町村へUIターンする定住者が対象
- 上記2プランは、2年間、毎月の電気料金が1000円割引になります (包括連携協定を結んだ市町村に限定。現時点では長野県飯田市、泰阜村)

シンプルプラン 料金表

(消費税込)

契約容量	基本料金	電力量料金 (1kWhあたり)
20A	0円	25円80銭
30A		26円10銭
40A		26円90銭
50A		27円90銭
60A		28円40銭

●対象：現在のご契約が20A～60Aのご家庭 (従量電灯B相当)



飯田まちづくり電力株式会社
(長野県飯田市本町1-15 トップヒルズ本町1階)
TEL 0265-53-0130 <http://iiden.co.jp/>

※FIT (固定価格買取制度) では、すべての電気利用者から賦課金を集めて、太陽光や風力など再生可能エネルギーで発電された電気を一定期間、一定価格で買い取り、再生可能エネルギーの普及を進めています。この制度で買い取った電気を「FIT電気」と呼びます

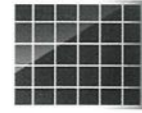


データと写真で振り返る

第1号ファンド事業



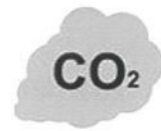
太陽光パネル設置・運用施設数
38施設
(いずれも飯田市内)



パネル設置容量
207.75 kW
(38施設合計)



15年間の総発電量
3,557,531kWh
(年平均 237,168kWh)



15年間のCO2排出削減量
1708 t-CO2
(年度ごと発電量×CO2換算値の合計)



発電量の対予想値
106%
(事業開始時の予想値3,420,000kWh)



CO2排出削減量を杉の木換算すると
約12万2000本 吸収分に相当
(50年杉、高さ約20-30mで試算)

「南信州おひさまファンド」利益配当総額

「南信州おひさまファンド」は、A号は2015年、B号は2019年まで、現金分配を実施しました。各契約の利益配当金の総額は、下記の通りとなりました。

A号契約

合計 12,473円
(1口10万円あたり
2006-2015年、10回分配)

B号契約

合計 150,030円
(1口50万円あたり
2006-2020年、15回分配)

「おひさまファンド」主な受賞記録

市民出資による太陽光発電普及の実績に対して、これまで多くの賞を頂くことができました。出資者をはじめ、事業実施にご協力頂いた関係者、設置施設の皆さまに深くお礼申し上げます。

- 2009年 第7回「日本環境経営大賞」環境価値創造部門 大賞
NEDO・経済産業省「新エネ百選」選定
- 2010年 「信州イノベーション大賞」環境ビジネス賞
- 2012年 「低炭素杯2012」最優秀イノベーション賞
「地球温暖化防止活動 環境大臣表彰」



おひさま発電所オープニング記念セレモニー。第1号発電所の明星保育園の園児たちが和太鼓を披露 (2005年10月29日、飯田市公民館)



第1回出資者ツアー。記念セレモニー招待や記名板見学、りんご狩りなどの南信州観光もあり48名が参加しました (2005年10月29日、30日)



A号契約の分配完了時、記念式典と出資者ツアーを開催。出資者と一緒に節目を祝いました。(2015年7月18日、鼎みつば保育園)



福祉センターのパワコン蓄電池盤



村役場のLED照明



エネルギー大学2期生の講義

昨年度、飯田市の隣の泰阜村で、村役場や中学校など防災拠点施設4カ所へ、パネルと蓄電池、LED照明等を設置しました。

蓄電池は京セラ製（33.6kWhまたは16.8kWh）を導入。昼間、パネルで発電した電気を施設で利用して、余った電気は蓄電。夜は蓄電池から電力供給して、不足する場合は電線から供給されます。災害等で電線の電力供給が止まっても、最低限の電力は自給できる仕組みです。この事業で地域の防災機能強化と、CO2排出削減を同時に進めていきます。

飯田自然エネルギー大学第2期は、今年4月に2年間の課程を終えて受講生8名が卒業しました。最終授業は、自分が暮らす地域や、仕事で取り組む事業計画を発表。学長の諸富徹教授（京都大学大学院経済学研究科）から「2年間の学びと各自の知見の相乗効果で、高水準の計画ができた。大学で培ったネットワークを生かして」とエールが送られました。

■役員体制変更のご報告

2020年5月28日、おひさま進歩エネルギー(株)第13回定期株主総会を開催して、任期満了に伴い役員改選を実施しました。代表取締役専務・蓬田裕一は3月末の辞任に伴い退任、新たな常勤取締役として海部岳裕が就任しました。そのほかの役員は再任となりました。代表取締役2名で行っていた会計処理の確認は、代表取締役と海部岳裕で実施しております。新たな役員体制で、引き続きしっかりと業務に取り組んでまいります。

新体制	代表取締役	菅沼利和
	取締役	谷口彰、上沼俊彦、海部岳裕
	監査役	小林和博
	顧問弁護士	河合弘之（さくら共同法律事務所）

■スタッフ紹介



小島

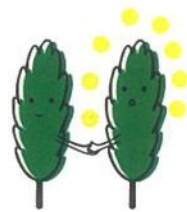


佐々木

今年4月、新たに入社した社員2名を紹介します。

小島陣也は、地元高校の電子機械科を卒業後、東京都の専門学校、民間企業を経てUターン。電源開発部門で太陽光、小水力事業の開発を担当します。

飯田まちづくり電力(株)へ入社した佐々木美穂は、3年前に東京都からUターン。大手電力会社で働いた経験があり、顧客サービスや電力の需給管理を担当します。頼もしい新メンバーと一緒に、力を合わせて事業を進めていきます。



新型コロナウイルスが世界を席卷しています、多くの国でたくさんの人たちが自宅待機を余儀なくされています。一刻も早くワクチンや治療薬が開発され、ウイルスを封じ込めることを願うばかりです。一方で人々が移動をしなくなり、経済活動が停滞する中で、大気汚染の劇的な改善や河川や運河の水がきれいになったとの報告がなされています。改めて私たち人間の活動が環境に悪影響を与えていることを認識させられます。

当社の第1号ファンド「南信州おひさまファンド」が今回の分配をもって完済します。多くの皆さんに支えていただき、事業を進めることができたと改めて感謝申し上げます。

この機に今後10年を見据え南信州地域の使用電力の50%を地域内の自然エネルギーでまかなおうと計画しました。するともっともっと太陽光や水力の発電所を増やしていかなければならないことを自覚するに至りました。社員一同地域から世界に目を向けて研鑽を深め、努力してまいります。

おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 菅沼利和



〒395-0027 長野県飯田市馬場町3丁目411番地
 TEL 0265-56-3711、FAX 0265-56-3712、メール info@ohisama-energy.co.jp
 HP <http://ohisama-energy.co.jp/>